

このレターは、当協会にご縁を頂いている経営者の皆様にお届けしています。

答えのない21世紀で奮闘されている経営者の皆様へ

Vol. 85

8年目突入です。 2024.04.01

U 協 近 畿 通 心

～U協を使い倒しましょう～

公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会
近畿事業推進部

【はじめに】

近畿事業推進部の川畑です。新学期、希望があふれる季節ですね。庭の花梨が今年も可愛い蕾をつけています。昨年思い切って剪定を大胆にしてもらったので心配していましたが蕾が見られてほっとしています。プランターに種蒔きした菜の花も綺麗な花を咲かせて私を愉しませてくれています。裏にも同時期に菜の花を種蒔きしたのですが、日照の関係でしょうか？こちらはまだこれからです。これも楽しみです。



昨年選定したので開化を心配していましたが、今年もたくさん蕾がついています。

周りでは卒業式も終わり、今月は入学式ですね。この時期希望に満ちてなんだか明るい気がします。春闘も満額回答が多く、消費拡大で景気回復期待したいですね。日経平均も3/22(金)に41,087.75円という史上最高値をつけました。日経平均があがっても直接的に私たちに恩恵はないかもしれませんが、景気は気からといいますから、この勢いを借りて景気が回復して明るい年になって欲しいものです。

4月1日(月)に今年も電話対応コンクールの問題が発表になります。インターネット隆盛の時代に電話はもう古いと言われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちは電話だけではなく、ビジネスコミュニケーションとしてその必要性を訴えています。電話をする機会や直接対面で話す機会が減っているからこそ、ビジネスコミュニケーションはとても大切だと私たちは考えています。日本語は普通に話せるからビジネスコミュニケーション研修等は必要ないと言われる方、本当にそうでしょうか。そう思われる方は一度当協会の電話対応コンクールを観に来られませんか。私たちは電話だけではなく、ビジネスに必須のコミュニケーション力アップの活動をいくつも全国で行っています。今年度から東京支部で実施しているビジネスコミュニケーション研修を全国のみなさまにご活用していただけるよう取り組んでいます。貴社の実力試しに電話対応コンクールや企業電話対応コンテストにぜひ参加されることをお勧めします。参加されましたら、実力がわかりますのでその後のレベルアップについては私たちにぜひご相談ください。私たちには長年にわたるビジネスコミュニケーション力アップのノウハウや人脈の蓄積があります。貴社のお役に必ず立てるものと考えています。

今25日(木)の経営者のための情報セキュリティ講座に向けて準備を進めています。講師は私が務めます。募集中ですので各支部のHPからお申込みください。会員は無料です。

今年度も「U協近畿通心」を愉しんで頂けると嬉しいです。

【ICT用語豆知識 「ワードクラウド」ってご存じでしょうか】

「ワードクラウド」とは、テキストデータの中の単語を出現頻度に合わせて大小をつけて視覚化する手法です。ワードクラウドを見れば、テキストマイニングしたデータソースの中で何が注目されているのか、重要なのかをひと目で把握できます。

ワードクラウドの作成方法は以下のステップで行います

1. テキストデータの抽出: ホームページのテキストを抜き出します。
2. ワードクラウド化: 頻出する単語を選びその頻度に応じて大きさを設定して画像化します。

P4で[ユーザーローカルAIテキストマイニングツール](#)を紹介していますが、百聞は一見にしかかず、P7で実際に使った事例を紹介します。

前は、第114回「共感力が心をつなぐ」(2023.10.16)をご紹介しました。

今回は、第115回「**もっと日本語で話ませんか**」(2023.11.15)をご紹介します。

IT社会になって、英語の世界共通語化が進み、教育現場でも企業社会でも、英語を重視する傾向はますます高まっています。さまざまな公文書や私文書類でも、カタカナやローマ字で表される外国語の比率は増える一方です。そのことは取りも直さず、母語である日本語の存在感の低下を表しています。今回は、「もっと日本語で話ませんか」をテーマに、日本語の大切さについて改めて考えます。

分かり難い横文字の略語

文化庁が2022年度に実施した「国語に関する世論調査」の結果が、この秋に公表されています。その中で「SNS(ネット交流サービス)、DX(デジタルトランスフォーメーション)、AED(自動体外式除細動器)などの、横文字の略語の意味が分からなくて困ることがありますか」という問いがありました。その問いに対して、「よくある」「時々ある」と答えた人が85.1%に上ったと報告されています。この驚くべき高い数字は、ITに弱い高齢層が足を引っ張っているためだろうと一瞬思いました。ところが意外なことに「よくある」と答えた人が、若年層の20代で67.1%、30代でも79.5%もあったというのです。

この結果に私は愕然としました。SNSもDXもAEDも、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、それにネットなどで、ここ数年、頻繁に出てくる言葉です。注釈がついている場合もありますが、**85%を超える人がよく分からないと答えている**のです。それも、AEDのような、時に命に関わるような、緊急性のある言葉までが、平然とそのまま使われているのです。

カタカナ文字言葉が好きな日本人

それにしても、日本人は何とカタカナ文字、ローマ字表記の横文字、英語を主とした外来語が好きなのでしょうか。欧米の文化が入ってきた時、かつての先人たちは、その国の言葉を日本語に訳すのに大変な苦勞をしたと聞きます。「情報」という言葉を例に挙げますと、「情報」のものはドイツ語のナッハリヒテンという言葉です。それを訳す時に、この言葉は単なる「告知」とは違う、伝え手の「思い」「情」がある。悩んだ末に、訳者の森鷗外が選んだのは「情報」という言葉でした。これはかなり有名な話ですが、訳者については異説があるようです。しかし、母語を活かしながら、言葉の深い意味を表現する先人の努力には胸打たれました。

世界共通語化している英語や専門語などに習熟することは、もちろん必要でしょう。しかし今の日本の現状を見ますと、カタカナ表記の外国語や先端の専門語、あるいは流行語をあえて多用して、背伸びして話す人が増えているように感じます。**言葉はその逆で、聴いてすぐ分かるように話すことこそが、教養ある人の心得です。**あえて使うのでしたら、注釈を入れて話す心づかいが必要でしょう。

日本語の特徴

衰退の危機を感じる日本語の現状で、もう一つ考えなければいけない問題があります。明日の日本を考えた時に、子どもたちの言語教育環境が大きく変わりつつあることです。

日本語は、およそ1,400年の歴史の中で、外国から攻められ奪われることなく、独自の発展を遂げてきました。世界の言語はおよそ6,000種類と言われます。それぞれの言葉を母語として使っている人の数は、中国語が8億8,500万人で第1位、2位が英語で4億人、3位はスペイン語で3億3,200万人。日本は9位で1億2,500万人が、日本語を母語として大切に守り続けてきました。日本語は、ひらがな、カタカナに漢字を交えて話しますから意味が分かりやすく、文章は効率的で独特です。それに語彙の豊かさは世界有数です。また、表意文字と表音文字を併せ持ち、音節言語で発音しやすいという特徴があります。敬語という言語形式も持っています。この優れた日本語が、今、カタカナ語に侵食されているのです。

「日本では、2020年から、小学3年生から英語教育が始まりました。未来を背負う子どもたちが、自国語を十分マスターしないうちに、英語教育を始めることは、将来的にその国固有の言語の衰退を招きます」。これは日本語学者の宮島達夫さんの警句です。

ご存じのように日本では引き続き英語教育を推奨しています。小学校だけではなく、中学校でも、英語の授業時間数が国語の時間数を超えているのです。「**言葉を失くした国は亡びる**」という警句を、**言葉を生業とする私たち皆が考えなければならない時**だと思えます。

【ユーザ協会の得意技！ こういう蓄積・ノウハウがあります。 AI技術活用シーンと注意点（1/2）】

AI技術が世の中に進展し、規模の大小にかかわらずAIを導入して成功している企業が増えてきました。連載最終の今回は、小規模事業者や中小企業がAIツールを導入して経営課題を解決し、効果が上がった事例と誰でも利用できる無料のAIツール3選について説明します。

中小企業におけるAI活用事例

AIを利用する中小企業が年々増加しています。誰でもどこでも利用できるクラウド環境の普及がその理由の一つです。手頃な価格で導入でき、専門的な知識を持つ社員が社内になくとも契約して即翌日から利用可能なAIツールが増えてきたことも追い風になっています。そこでまず、イメージしやすくするために分かりやすい事例を紹介していきます。

事例1 アパレル洋品店

アパレル業界での**音声会話機能を持つ顔認識AIの導入事例**です。リアル店舗でベテランのスタッフ同様に売上や客単価向上に寄与した事例です。

経営上の課題

アパレル業界では通常、ベテランスタッフになると、客の顔や年齢、洋服の好み、スタイルなどを覚え、それに基づいて適切なコーディネート提案を、購入につなげることができます。しかし、**新人スタッフにはこのようなコーディネートの提案が難しく、売上や客単価にベテランとの差が生まれるという問題がありました。**

AI導入による解決策

顔認識が可能なAIを搭載した音声会話ロボットが、来店した客にベテランスタッフと同様にコーディネートの提案を行います。例えば、「このジャケットにはこのスカーフがおすすめ」というように「コーディネート提案」といったアドバイスをすることで、客の購買意欲を刺激し、売上の向上が狙えます。

経営への効果

この音声会話ロボットは、客の顔情報を基に性別を判別し、アイテムやコーディネートの提案を行います。さらに客の表情を読み取り、その反応に合わせて提案内容を調整する機能があります。**コーディネートの提案には実際の店舗スタッフの経験や知識が活用され、リアルな提案ができ、売上や客単価の向上につながっています。**

事例2 パン製造販売店

パン・ベーカリー業界での**画像認識AI及びPOS（販売時点情報管理）の導入事例**です。

経営上の課題

少子高齢化によるパン・ベーカリー業界の人材不足は、日常の販売現場に問題を生じさせていました。特に、新入りのパートやアルバイトは販売している100種類以上のパンをすぐに覚えられず、結果としてレジ待ちの行列が生じてしまいました。**繁忙期に行列ができると、来店した人の一部は購入を避け、これが機会損失となりました。**また、パンの種類を間違えてレジ処理を行うことで、**クレームの原因**ともなっていました。

AI導入による解決策

パンの画像認識AIは、**客がトレイに載せたパンをカメラで撮影し、それを自動で識別**します。そして、識別したパンの種類と数量から、自動的に購入金額を計算するという、POSと連携したAIシステムを導入しました。

経営への効果

画像認識AIにより、**レジの処理速度が飛躍的に向上**しました。これにより客の待ち時間が大幅に短縮され、その結果、**顧客満足度が上がりました。**誤計算によるクレームも減少し、**新人スタッフの教育時間も大幅に短縮され、人材不足の問題も緩和されました。**

事例3 日本酒製造業

日本酒製造業界で、伝統的に職人の勘と経験に依存していた**製造プロセスにAIを導入した事例**です。

経営上の課題

日本酒製造では、杜氏(とうじ)や蔵人(くらびと)と呼ばれるベテラン職人が高齢化し、また、酒づくりの肝となる業務が属人化する傾向が強まっていました。そうしたノウハウは文書や動画での記録がなく、「背中を見て覚える」方式での教育が中心であり、**若手を採用しても職人として育成するには時間と労力がかかる問題があったため、結果として一定の品質で安定的に製造することが難しくなっていた**のです。

【ユーザ協会の得意技！ こういう蓄積・ノウハウがあります。 ChatGPTなど生成AI技術の台頭と普及（2/2）】

AI導入による解決策

日本酒製造の際の温度や湿度など、各種センサーから収集したデータを、数理モデルや成分の計測値と組み合わせることで、最適な製造プロセスをAIが算出しました。これにより、杜氏や蔵人のベテラン職人の技術やノウハウを次世代に伝える方法が確立されました。

経営への効果

AIの導入により、収集した各種データを基にした予測や最適な製造支援が可能となりました。その結果、ベテラン職人の技術やノウハウがシステムとして可視化され、高品質な日本酒を安定的に製造することが可能になりました。

活用してみたい無料のAIツール

こうした事例に見られる通り、中小企業でも、AIツールの導入で、さまざまな経営課題を解決し、経営効果を高めることができます。その中でもおすすめのAIツールといえば、前回の連載でも紹介した**ChatGPT**ですが、このほかにも**有用なAIツールが多数**あります。一例として、今すぐ始めることができる無料のAIツール(図参照)を紹介します。

ツール名	Canva	UserLocal AIテキストマイニング	ELYZA Pencil
用途	オンラインデザインツール	文章データの定量的・定性的分析や可視化	AIを用いた文章自動生成
主な特徴	AIを用いた画像生成機能。作成した画像はデザインにそのまま利用できる。デザイン加工機能も利用可能	ワードクラウド [®] 作成による可視化。頻出語の検知で使用回数や割合を抽出	2つから8つのキーワードを指定して文章生成。高いクオリティの文章出力。ニュース記事やメール文、職務経歴書などの作成も可能

一つ目は、**オンラインのグラフィックデザインツール「Canva」**です。これは、**SNSの投稿、ロゴ、プレゼンテーション、ポスター、動画などを作成できます**。デザインのスキルがなくとも簡単に使用でき、テンプレートも豊富にあるので、好みに合わせてカスタマイズできます。

二つ目は、**テキストマイニングツール「User Local AIテキストマイニング」**です。これは、**アンケートの自由記述やクチコミを自然言語処理し、頻出語や特徴語を抽出でき、さらに音声認識技術による文字起こしも可能**です。テキストから**有益な情報を抽出したい時に便利で、アンケートやクチコミの分析、顧客のニーズ把握などに活用**できます。

最後は、**AIライティングツール「ELYZA Pencil」**です。**メール文やニュース記事、職務経歴書など、さまざまな文章を自動生成できるツール**で、無料版はアカウント登録不要で気軽に利用できます。

AI導入で気をつけること

AIの導入には気をつけるべき点がいくつかあります。まず、顧客情報などのデータを扱う時には、**その情報が守られるよう注意が必要**です。特に顔認識や行動予測などの技術は、使い方によってはプライバシーの問題を引き起こすことがあるので、その辺りの規制やガイドラインに従うことが大切です。

さらに、**著作権と生成AIに関する問題があります**。原則として、**AI学習に写真などのデータを利用することは著作権侵害には当たらず、AIによって自動生成されたコンテンツには著作権は発生しません**。しかし、そのコンテンツが既存作品と類似性や依拠性が認められれば著作権の侵害となります。これらには法改正を求める声もありますし、法解釈について未知な部分もあるため利用際には注意が必要です。

以上のことをよくご理解いただき、AIという素晴らしい道具を経営に活かしていただきたいと思います。

※ ワードクラウド

テキスト内の単語の頻度に応じて文字の大きさを変えたり文字を色分けするなどして、どんな単語が多く使われているかを見える化する手法。

【お役立ち情報：商工会議所でICT系の講演をしました。(1/2)】

2月29日(木)洲本商工会議所にて「**企業を取り巻くDX、カーボンニュートラルの最新動向**」、3月7日(木)貝塚商工会議所、3月26日(火)泉大津商工会議にて「**ChatGPTは仕事につかえるか?!**」について講演しました。その概要をお伝えします。

どの講座もまず最初にICT活用で大事な経営者の心得でWealthNaviの柴山和久さん、タクシーGOの川鍋一朗さんの経験も交えながらこんなことを経営者のみなさんにお話しています。ポイントは3つです。

- ①**まず自ら触れてみる(=担当任せにしない)**
- ②**なにができるのか経営者視線で概略を掴み、自社のどこに使えるのかをイメージする**
- ③**自社でトライするしかけを考える(大枠) ⇒ やって合わないなら次の手を考える**

経営者の方がこういう意識で日常行動されないとその企業でのICT活用は進まないとは私は断言します。WealthNaviの柴山和久さん、タクシーGOの川鍋一朗さんはそれぞれWealthNaviやタクシーGOのプロトタイプ(初期モデル)を自らプログラミングの学校にいて作られています。この行動までは行かなくても上記の3つはやって頂きたいです。**まず自ら触れてみる(=担当任せにしない)**がとても大事ですね。どの講座でも具体例をあげてICTの活用状況をお訊きしていますが、残念ながらまだまだ活用されている企業がとても少ないです。従業員任せではとても進まないの現状です。ここは経営者の方の出番ですね。ICTを活用していかないと飛躍的に速攻性ある生産性向上は難しいでしょう。

今年春闘の賃上げは、NHK3/15(金)報道によれば連合771社労働組合の平均で月額16,469円、5.28%(定昇ペア込)となっています。従業員は賃金があがって嬉しいですが、経営者はこの原資をどこから生み出すのでしょうか。それは生産性の向上でしか成しえないのではないのでしょうか。講演の中で**10%生産性をあげたら、25.4日/年が創造的業務へ(約45万円)×従業員数、20%生産性をあげたら、50.9日/年が創造的業務へ(約91万円)×従業員数、30%生産性をあげたら、76.3日/年が創造的業務へ(約137万円)×従業員数となることを紹介**しています。ICTを活用してこれを達成して欲しいのです。もちろんアナログでも生産性は上げられるでしょうが、それでこのVUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)の時代に生き残っていけるのでしょうか。



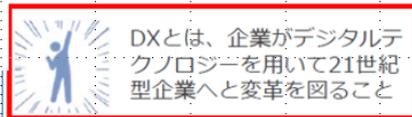
次に洲本商工会議所では、DXやカーボンニュートラルが必要とされる背景と概要を掴んで頂いたあと、企業(4社)や国(エストニア)のDXとはいったいどういうことなのか、そしてそれぞれの立場でなにをすればいいのかお話ししました。そしてDXなどで役に立ちそうな情報をご提供しました。

DX推進は山を歩いて登るようなものです。デジタイゼーション、デジタルライゼーションを経て山頂にいくと、DX(違った景色)が視えてきます。そして次の山を探して登って行きます。※ヘリコプターでの登頂はありません。まとめとして社長さんと指導的立場の人はなにをどうしたらいいのかをお話ししました。

DX化のイメージを掴んだら社長はなにをどうしたらいいのでしょうか。

- よくわからないがDXをやってみようと言いつける** 経営者の視点が大事!

柴山さん、川鍋さんもわからないから最初は自分でプログラミングの学校にいてプロトタイプを作った。従業員もわからないから社長のエンカレッジ(勇気づけ、励まし)がとても大事です。



- やる気のある人材を探す → 任せて支援・応援する(決して任せきりにしない)**

会社、業務のことをよく考えてくれる人(デジタル知識が高くなくてもいい)をアサインする。
アサインしたら支援、応援する。

デジタル知識・技術
低 高

	低	高
高	③	①
低	④	②

- ①めったにいないがいたらラッキー
- ②デジタル知識をひけらかし評論家のような人
- ③当事者意識さえあればなんとかなる人
- ④箸にも棒にも掛からない人

ITエンジニアの雇用先割合(%)



DX化のイメージを掴んだら指導的立場の人はなにをどうしたらいいのでしょうか。

□DXとはなにかを周りに伝える ⇒ 仲間を増やす (理解・納得・共感までいけば最高)

デジタルイゼーション ⇒ デジタイゼーション ⇒ DX

ペーパーレス化
特定業務のデ
ジタル化

業務フローの見直し
データフローの見直し

視えてきた景色を俯瞰してみる

- ・ビジネスモデル変革
- ・働き方、企業文化等企業風土変革
- ・社会変革

- ・DX推進の勉強会開催 ⇒ 小さく初めて、大きく育てる
- ・業務フローやデータフローの見直し ⇒ 身近なお客様に近いところ、やりやすいところから始める

□学び続ける ⇒ 事例、情報収集 セミナー参加 工場見学 研修参加等々

問題意識は潜在意識に留まる (=自分で考えることがとても大事) ⇒ 自然に情報は集まってくる

ICTは進化(深化)している 学び続けないとアイデアも浮かばない

企業人、人としても豊かな人生には学び続けることがとても重要

□上司、経営者に働きかける ⇒ 上司、経営者が理解しないなら手を変えよう

上司は使うものと発想しよう ヒント：自分が部長(意思決定者)だったらと思考する

また、貝塚商工会議所と泉大津商工会議所では、ChatGPTとはなんなのか、どんな仕事に使えるのか具体的な使用例も交えてお話ししました。まとめとして使うのかどうか判断を参加者にお願ひしました。

ChatGPTができること

これまでオリジナルが人間のアウトプットに対して修正する、ということではできたが、ChatGPTはアウトプットを作り出すところからサポートしてくれる。また1つのツールで幅広い分野での応用が可能(英語だけ、プログラミングだけ、などに閉じない)

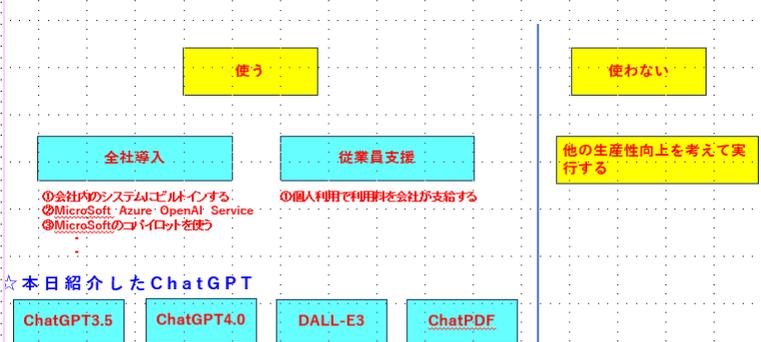
	自然言語	ユースケース	プログラミング
オリジナルが人間のアウトプット	文章の添削、校正	文法ミスだけでなく内容の改善点まで指摘	③ コードの添削改善
	文章や概念の要約	文字数を指定して要約	
	壁打ち、ブレインストーミング	「〜〜」という考えのうち抜けている点を指摘	④ AIと人間で会話しながらアイディエーション
	リサーチ、論点の洗い出し	「XX」について要点だけ説明	② ディベート風に論点を洗い出し
オリジナルがAIのアウトプット	アイデアの提案	SEO対策したタイトルやキーワード形成	① 何かに足りなくて答える
		結婚式のスピーチのアウトライン作成	例題や乱数などの生成
		広告文の自動生成	表形式で比較表を作成
		人気のあるプログラムの内容案の提案	コードの生成、提案

○内閣府AI戦略会議資料 松尾研究室 <https://www.mhlw.go.jp/content/11601000/001125241.pdf>

GPTに期待される用途の簡易マッピング



ChatGPTを仕事に使いますか？



☆本日紹介したChatGPT

- ChatGPT3.5
- ChatGPT4.0
- DALL-E3
- ChatPDF

【お役立ち情報：ワードクラウド使ってみました。】

IT用語の豆知識で紹介した「[ユーザーローカル AIテキストマイニングツール](#)」を使ってみました。P1の「はじめに」の文章を入力(コピー&ペースト)してみました。

解析したいテキストを入力する

ワードクラウド作成

1つの文書を解析

2つの文章を比較

Excelクロス集計

音声入力

大容量テキストマイニングでは、より多くの文字数のテキストからワードクラウドを作成できます。

サンプル：銀河鉄道の夜

フォーム入力

ファイルをアップロード

そう思われる方は、いっかい当協会の電話対応コンクールを観に来られませんか。私たちは電話だけではなく、ビジネスに必須のコミュニケーションアップの活動をいくつも全国で行っています。今年度から東京支部で実施しているビジネスコミュニケーション研修を全国のみなさまにご活用していただけるよう取り組みも始めています。貴社の実力試しに電話対応コンクールや企業電話対応コンテストにぜひ参加されることをお勧めします。参加されましたら、実力がわかりますのでその後のレベルアップについては私たちにぜひご相談ください。私たちに長年にわたるビジネスコミュニケーションアップのノウハウや人脈の蓄積があります。

今25日(木)の経営者のための情報セキュリティ講座に向けて準備を進めています。講師は私が務めます。募集中ですので各支部のHPからお申込みください。会員は無料です。

今月も「U協近畿通心」を愉しんで頂けると嬉しいです。

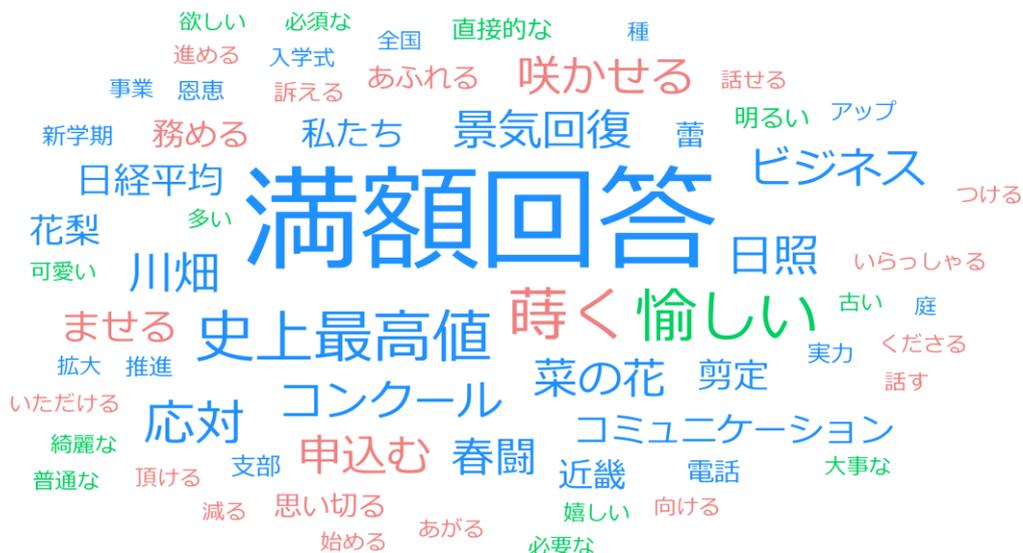
テキストをコピー&ペーストして
ここをクリックします。

ワードクラウド作成

992文字

文字数上限を増やす

ワードクラウドスコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさに図示しています。単語の色は品詞の種類で異なり、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞・形容動詞、灰色が感動詞を表しています。こんな画像ができました。いかがでしょうか。ひとめでわかりますかね。文章が短いのでそんなにうまく把握していないようにも観えますが面白いですね。どんなビジネスシーンで使えるか考えてみてください。



<原稿大募集します！>

あなたの知識や経験等が他の会員さんのお役に立てば、嬉しいですね。いつでも待ってま〜す。写真等も大歓迎です。

送り先：f.kawabata@jtua.or.jp (川畑) までファイル (A4) を送ってください。



主催：日本電信電話ユーザ協会
共催：東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社

ユーザ協会会員様は

参加費無料

【2024年度 全国参加型ICTオンライン講座 第一弾】

経営者のための情報セキュリティ講座

～ 経営者はなにをどうすればいいのかを一緒に考えましょう ～

セキュリティインシデントは、地域、会社規模を問わず毎月のように発生しています。昨今の会社経営において、サイバー攻撃による身代金要求や、会社情報の漏洩など、様々なリスクを想定した情報セキュリティ対策は必要不可欠であり、特に会社を経営する立場から、どのような対策を講じる必要があるのかを一緒に考えたいと思います。

経営者・管理者の皆さまは、この講座にぜひご参加ください。

日時：2024年4月25日(木) 13:30 ▶ 15:00

講師：(公財)ユーザ協会近畿事業推進部長 川畑 文雄

定員：300名

参加費：一般5,500円、ユーザ協会会員は無料

対象者：中堅・中小企業経営者、管理職等

- (注)1.本講座の録音・録画は禁止とさせていただきます。ご協力の程お願いします。
2.本講座の内容は、若干変更となる場合がありますので、ご容赦ください。

右 QRコード または 以下申込サイトからお申込みください。

<https://coubic.com/jtua-kinki/3136095>



ユーザ協会では、ICT活用事例や電話対応教育メニュー等の情報を積極的に発信しております。本協会の趣旨にご賛同いただき、最新のICT情報等を更にお知りになりたい方は、是非この機会に協会への入会をお願いいたします。入会には年会費がかかります。年会費の額はユーザ協会各支部までお問い合わせください。

ユーザ協会



【問い合わせ先】(公財)日本電信電話ユーザ協会 各支部 (ホームページを参照願います。)

プライバシーポリシー(プライバシーに関する公益財団法人日本電信電話ユーザ協会の確約)

公益財団法人日本電信電話ユーザ協会は、常日頃より関係者の情報を厳正に管理し、プライバシー保護に努めています。ユーザ協会は、関係者様の個人情報は当協会の定款に基づく事業目的以外には、使用致しません。なお、頂いたメールアドレス宛に、今後協会の各種情報を送付させていただきます。